



# PickUp!

## 注目記事

21 May 2011

### 緊急実施！津波から生き延びる訓練

# 津波避難訓練



**1** 大津波警報が発令されると西側区住民は通称：寺坂を一気に上ってきた**2**訓練時、実際自宅から避難場所である高台までどのくらいの時間が掛かるか計測した人もいた**3**避難し終わると、町内会で反省会が開かれた。避難経路の確認や避難場所になりうる場所を検討した**4**同報無線が聞こえにくいというマリンスポーツ愛好家たちのために、オレンジフラッグも新設された。

「家からここまで1分50秒」。ストップウォッチを手に持った住民が、息を切らせながら、先に避難していた住民にそう話した。まさに本気の津波避難訓練。今回の訓練は、3月11日に発生した東日本大震災を受け、毎年予定している7月の訓練を前倒して5月21日に実施された。

想定される東海地震の発生に備え、これまで私たちはさまざまな訓練を実施してきた。津波避難訓練は、その延長線上にある。しかし、津波と聞

いても対岸の火事と訓練にも身が入っていなかったのが実状だ。ところが今回は違った。震災で、津波の脅威とその猛威を痛感せざるを得なかった。それぞれが、東日本大震災の津波の映像を見て、津波から命を守るために本気になった。

今回は、市内海拔20m以下の地区が対象となった。東日本大震災で発生した津波が、15mを超える地区が相次いだため、市防災課が独自に設定したのだ。従来から訓練に参加していた御前崎・白羽地区

以外の地区でも各自自主防災会を中心に訓練が展開され、それぞれの会場で、課題や反省点を熱心に話し合う参加者の姿が多く見られた。

市は今後、市内各所へ海拔表示看板を設置していく予定。町内会や市民団体が、自分たちでできることは何かを真剣に議論し、行動に移し始めた。自助、共助、公助の全てが機能すれば、たとえ大津波が来ても、その被害を最小限に食い止めることができるだろう。